トヨタのモノづくりと社会貢献活動

東北の未来に向けて
地域と一体で取り組む

「小型車の代表車である『カローラ』の生産が東北の元気につながると確信している」。5月にトヨタ自動車東日本の本社工場（宮城県大衡村）で行った新型カローラのラインオフ式で、豊田章男トヨタ社長は東日本大震災の被災地支援への強い思いを語った。震災から1年以上たち、打撃を受けた地域産業の再興が加速している。ただ、本格的な回復にはすそ野が広い自動車産業を核としたさらなる振興が欠かせない。トヨタはモノづくり活動の強化を軸に、継続的な支援に取り組むほか、地域での社会貢献活動にも力を入れている。

ココロハコブプロジェクトで東北の長期的、継続的な支援に取り組む（左から達増拓也岩手県知事、豊田トヨタ社長、村井嘉浩宮城県知事）

小型ハイブリッド車（HV）「アクア」とカローラ。トヨタが2012年に入り、東北で生産を始めたこの2車種はエコカー補助金を追い風に販売を伸ばし、東北の地域産業に活気をもたらしている。

1月にトヨタ東日本岩手工場（岩手県金ケ崎町）で生産を始めたアクアは、ガソリン1リットル当たり35・4キロメートル（JC08モード）と量販HVで最高の燃費性能と169万円からという低価格を両立した。抜群の商品力で爆発的な人気となり、月間3万台規模の生産が続く。6月1日時点で注文しても工場出荷は11月になるほど。岩手工場では小型車「ブレイド」の生産をやめ、アクアを増産しやすい環境を整えた。

トヨタの主力セダンのカローラも、発売後1カ月間の受注台数が目標の2倍強の1万5000台を達成。順調な滑り出しをみせる。

今や東北活性化のシンボルとも言える2車種だが、実はトヨタは震災前から岩手工場でのアクア生産や、トヨタ東日本本社工場への国内向けカローラの集約の方針を固めていた。生産コストの観点から見て、東北で利幅が薄い小型車を集中生産し、低コストな生産体制を構築できると見ていたからだ。

結果的にその構想は、東北の活性化を後押しすることになった。すそ野の広い完成車の生産が東北で増えれば、素材や部品、物流など車に関わるさまざまな仕事が創出され、地域産業には絶好のチャンス。「トヨタにできることはモノづくりを通じて、地域の人たちと一緒に東北の未来をつくることだ」と豊田社長は語る。東北での部品調達を推進するなど地域産業を積極的に支援する方針だ。

13年4月には企業内訓練学校「トヨタ工業学園」の東北版となる「トヨタ東日本学園」をトヨタ東日本の本社敷地内に開校する。中長期を見据えた人づくりを通じて、モノづくり基盤を強化するのが狙いだ。

東北の工業高校の新卒者から生徒を募集し、30人程度を1年間教育する。第1期生を7月から募集する予定。豊田社長は「トヨタで育成した人材が東北から魅力ある商品を届け、日本を引っ張る環境が根付いてほしい」と期待を語る。

プロジェクト立ち上げ
継続的な支援活動展開

モノづくり活動を通じた支援活動は、広範囲に及ぶ。トヨタとトヨタ東日本は宮城県大衡村の第2仙台北部工業団地に大規模太陽光（メガソーラー）発電所を設置し、隣接する工場や地域をネットワークでつないで電力を効率的に利用するスマートグリッド（次世代電力網）「F―グリッド構想」の実験を始める。

太陽光などで発電した余剰電力を工場間で融通して省エネルギー化を図るほか、地域で停電が起きた際は、工場で自家発電した電力を近隣の住宅に供給できるかなどを研究する。トヨタとトヨタ東日本が主体となり、学識経験者や地域の産業関係者、国の機関、宮城県や大衡村が参画する検討委員会で実現に向けた課題を洗い出す。

トヨタ東日本学園（イメージ図）を設置し、東北での人材育成を強化する

F―グリッド構想の一環として、13年1月からは農商工連携事業にも着手する。豊田通商子会社が出資する農業法人のベジドリーム栗原（宮城県栗原市）が、トヨタ東日本から宮城県大衡村に3万平方メートルの土地を借り、車工場からの廃熱を使ったパプリカ農場を開く。

農場には栽培面積1万8000平方メートルの大型ハウスを建設し、年間約315トンのパプリカを栽培する。トヨタ東日本が導入した自家発電設備から生じる熱で温水を作って夜間の温室の暖房などに使用。温室の暖房コストを25％削減する計画だ。

トヨタがモノづくり活動の強化・支援とともに取り組むのが社会貢献だ。震災直後から関係会社や販売店を含むグループ一体となって、水や食料、毛布などの緊急支援物資の輸送や支援者の派遣、義援金、車両の提供、寮・社宅の提供などあらゆる支援活動を実施してきた。11年6月には支援活動を継続的に行うプロジェクト「ココロハコブプロジェクト」を立ち上げ、社会貢献活動を拡充している。

岩手県と宮城県、福島県が設立した育英基金にそれぞれ1億円を寄付。芸術・文化活動を通じて被災地支援活動を展開しているファンドなどにも寄付した。自らも「トヨタコミュニティコンサート」や「トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーン」の東北公演を実施するなど、積極的に取り組んでいる。

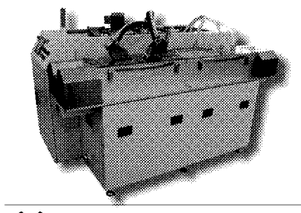
また、米国大使館と日米カウンシルが主催するプロジェクト「トモダチ・イニシアチブ」も支援する。

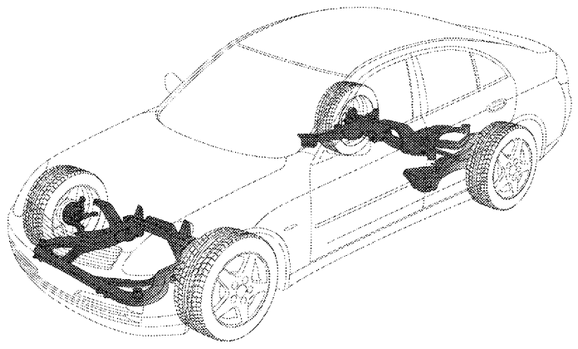
被災地では復興支援チャリティーコンサートを開く（写真は4月に盛岡市で開催したトヨタマスタープレイヤーズウィーンの東北公演）

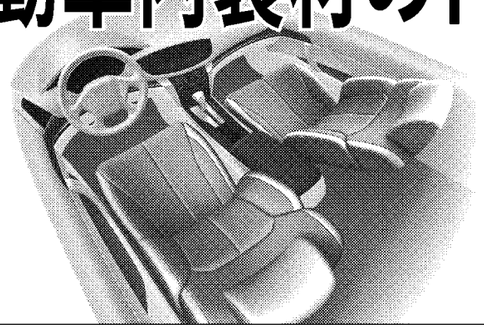
同プロジェクトは被災した地域の若者に米国への留学機会を与えることなどを目的としている。外部機関と組んでトヨタは、支援活動の幅を広げている。

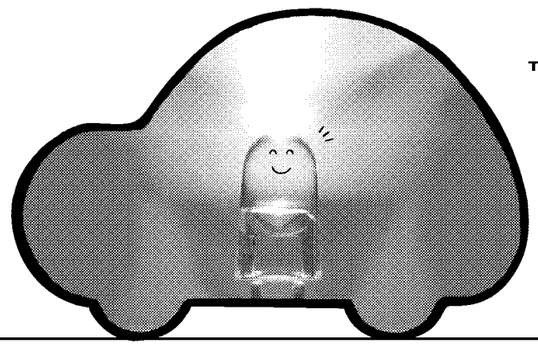
技（わざ）が奏でる
調べに敏感。

研究技術開発の
新領域をクリエイト
You need it,We create it.
TECHNOLOGY COMMUNICATION
株式会社東栄科学産業
http://www.toei-tc.co.jp/top.html

グローバル生産に適した環境対応工法
WLS
※特許申請中
ウェットブラスト＋潤滑剤塗布
【Wetblast Lubricant System】

ボンデ処理に代わる「WLS」は、潤滑性能を最大限に発揮し、廃水・廃棄物の削減、大幅な工程短縮を実現します。
詳しくはWEBで
http://www.macoho.co.jp
マコー株式会社　〒940-2032 新潟県長岡市石動町字金輪 525
TEL:0258-47-1729　FAX:0258-21-4124

走りの未来は、ここから生まれる。　サスペンションの「ヨロズ」

ヨロズは自動車メーカーの良き開発パートナーとして、新しい時代の新しいクルマ作りに貢献しています。
東京証券取引所市場第1部（証券コード7294）
株式会社ヨロズ
http://www.yorozu-corp.co.jp
（本　　社）神奈川県横浜市港北区樽町3―7―60
TEL：045-543-6800㈹　FAX：045-543-4915
（開発・技術センター）栃木県小山市横倉新田443
TEL：0285-42-9830　FAX：0285-42-9838

自動車内装材のトータルサプライヤー

住江織物株式会社
http://suminoe.jp　（東証一部、大証一部上場）
スミノエ テイジン テクノ株式会社
http://suminoe.jp/stt

豊田合成株式会社
地球環境のために、自動車と光の未来を考える。
―海外17カ国/地域に46拠点を展開―
TOYODA GOSEI

●内外装部品（インパネモジュール、ラジエータグリル 他）
●オートモーティブシーリング製品（ウェザストリップ、ガラスラン 他）
●機能部品（燃料タンクモジュール構成部品、ホース類 他）
●セーフティシステム製品（ハンドル、各種エアバッグ 他）
●オプトエレクトロニクス製品（青色・緑色・白色LEDランプ・チップ 他）
●特機製品（通信機器部品、住宅設備製品、産業車輌部品 他）
本社／〒452-8564 愛知県清須市春日長畑1番地　Tel:052-400-1055 Fax:052-409-7491
http://www.toyoda-gosei.co.jp/